

### 3 キューバのキャピトル・ヒル

左の写真は何でしょうか？ 米国ワシントンD.C.の連邦議会議事堂キャピトル・ヒル(Capitol Hill)？ ハズレです。正解はキューバの首都ハバナにある議会議事堂、その名もカピトリオ(Capitolio)です。姿も名前もワシントンの議事堂のコピーに見える？ その通りです。これが建設されたのは1929年、キューバが米西戦争を経てスペインから独立し、いまだ親米政権の時代で、ワシントンの議事堂そっくりに造られたのです。

1959年のキューバ革命以後は、議事堂としては使われていません。キューバの議会(人民権力全国議会という名前です)は、毎年6月と12月にそれぞれ2〜3日の会期で開催されますが、場所はここではなく、郊外の国際会議場です。

先日、議会がここで開かれぬ理由を同議会の関係者に伺いました。まずは「カピトリオで開かれていた議会は米帝国主義支配下の腐敗した議会だった。すべてのキューバ人民を正しく代表する人民権力全国議会の場には相応しくないという忌避感が強かったのだ」と原則

論を述べていましたが、本当のところは、そもそもカピトリオの議席が、座席数の多い下院会議場(正面向かって右側)でも140席ほどしかないのです。人民権力全国会議の議員全員(605議席)が入れない、との説明でした。現在改修・拡張工事中で、ハバナ市設立50周年記念、キューバ革命60周年にあたる2019年の修復完了を目指していますが、何しろ当時の材料と全く同じものを使って修復するという念の入れようで、例えば大理石はイタリアから同じ色のものをすべて取り寄せるといいますから、果たしてそれまでに修復が終わるのだろうか、と案じながら工事を見守っています。

カピトリオ正面の階段を上っていくと、大きなホールがありますが、そこには、巨大な



議会議事堂(カピトリオ)

女性の像が立っています。共和国像と呼ばれるこの像は、高さ17m、重さ30トンで、屋内にある像としては、奈良の大仏、ワシントンのリンカーン像に次ぐ世界第3位の大きさということです。ギリシャ神話の女神ミネルヴァのイメージだけでも、顔つきはキューバの先住民民族タイノ族の女性だそうです。

この大ホールの中央には、かつて大きなダイヤモンドが埋め込まれて

いました（今では中央銀行の金庫にしまっておりません）。このダイヤモンドのあった位置が、東京の日本橋と同様、キューバの道路元標となっております。



共和国像

## 4 近代的監獄パノプティコン

先日キューバの青年の島に出張した際、「模範監獄」と呼ばれる旧監獄跡を訪れました。このタイプの牢屋をパノプティコン (Panopticon) と呼ぶそうですが、これは pan (汎) -opti (見る) -con (監獄) という造語です、あえて訳せば「丸見え監獄」でしょうか。

写真の通り、円筒形5階建てビルの壁際に多くの独房があり、真ん中に看守塔が立っている構造です。看守塔からすべての独房の中が見えますが、逆に独房からは、黒ガラスで覆われた看守塔の中が見えません。看守は建物の外から地下通路を通ってこっそり看守塔に行くので、看守が居眠りをしている、さらには不在でも、収監者は常に監視されているという強迫観念から、品行方正に振る舞うことを心理的に強制されるというわけです。

囚人はとても嫌がるだろうと思われるこの監獄は、最大多数の最大幸福で知られる哲学者ジェレミー・ベンサムが18世紀に考案したもので、キューバには1931年に造られました。京都大学の佐伯啓思教授は、パノプティコンは社会の構成員を「完全に監視されていると思えば、自己規律化させていく」ものであり、監獄に限らず、学校や職場でも見られる典

# 11 キューバの公共交通機関

日本からキューバを訪れる方々は通常タクシー（後述のイエローキャブ）を使うことが多いと思いますが、キューバの人達が普段利用している交通手段は全然別モノです。本日は、そもそもハバナ市内にどんな公共の乗り物があるのか、写真入りでご紹介します（キューバでは鉄道は長距離輸送用しかないので、ここでは省略します）。

## 1 国営バス

この写真は国営のバスです。料金が安く市民の主要な交通手段なのですが、最大の問題は当てにならないこと。そもそも停留所に行っても時刻表がありません



国営バス

し、雨の日などは来るのか来ないのかさえわかりません。ボ（約1・76円）から1人民ペソ（約4・4円）です。

料金は乗車区間次第で、40センタ

## 2 タクシー・ルテロ（共同組合の運営するバス）

国営バスでなく、個人が集まって経営する共同組合のバスです。バスの車体そのものは国（国営企業）からの借り物ですが、国営バスと違って定期的に洗車をしているため、あまり埃が目立たない綺麗なバスです。冷房も付いています。他方、料金もかなり高めで、乗車区間により5人民ペソ（約22円）から15人民ペソ（約66円）です。

## 3 アルメンドロ（乗り合いタクシー）

国営のバスと並んで重要な市民の足がこのアルメンドロです。車両はとてつもなく古いア



タクシー・ルテロ

メ車か、そこそ古いソ連製ラダかモスコビッチ。普通の乗用車ですが、大きめの車ならば前列に運転手+2名、後列は4名くらいは平気で乗ります。冷房はついておらず、たまに乗客自身が後部ドアが開かないように押さえていなければならぬほどのボロ車もあります。料金は乗車区間次第で5人民ペソ（約22円）から20人民ペソ（88円）。

道ばたで手を上げて止め、どこに行きたいかを告げますが、運転手は自分の決めたルートしか走らないので折り合いがつかなければ乗れません。さて、乗車したら直ちに料金を確認する必要があります。運転手は相当のすれっからしが多く、外国人と見ると、同じ5ペソでも5兌換ペソ（約550円）などと目茶苦茶ふっかけてきますので、要注意です。

なお、アルメンドロンと同じような車両ですが、乗り合いでないタクシーもあります。もちろん値段



アルメンドロン

は張ります。日本大使館から旧市街まで、乗る人の交渉力次第で5兌換ペソ（約550円）から15兌換ペソ（約1,650円）。後述のイエロー・キャブよりは安めですが。

#### 4 バイク・タクシー

バイク・タクシーはハバナではほとんど見かけません。写真はたまたま町外れで見つけたものです。普通のバイクの後部に荷台をつなげただけの簡単な作りで、荷台に収容可能な人数一杯の乗客を載せます。速度の遅いのが難点。乗ったことがないので（あまり乗る気もしませんが）料金は不明です。

#### 5 自転車タクシー

いわゆる三輪自転車で、後部座席に2名まで乗れます。ハバナ旧市街にたくさん走っていますが、乗客はキューバ人もいれば観光目的の外国人もいます。先日、5分ほどの距離を乗ったら5兌換ペソ（約5



バイク・タクシー